

明治大学大学院情報コミュニケーション研究科

特別講義&学際研究

海保青陵の政治意識を DH で分析できるのか？

コーパス作成から Textmining まで

ミヒャエル・キンスキー教授

ミヒャエル・キンスキー教授はドイツの

ゲーテ大学フランクフルト・アム・マインの

日本学で日本文化史・日本思想史を担当する。

近年、デジタル・ヒューマニティーズは

目覚ましい発展を遂げている。そこで有力な手法は

ステマトロジー（文献の著者の異同や時代の推定）、

社会ネットワーク分析やテキスト・マイニング等であるが、それらの手法を日本

研究に応用するためには、多くの問題がある。本講義でキンスキー教授は、日本

語環境の問題を説明し、デジタル・ヒューマニティーズの手法の限界を紹介する。

同時に政治・経済思想で有名な海保青陵（1755-1817）の作品を同時代の文脈に

位置付けるために、デジタル・ヒューマニティーズに何が期待できるのかを、参

加者と議論する。

日時●2019年1月10日（木）17:10～ 申込・参加費不要

会場●明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント3階 4031 教室

言語●講演、質疑応答ともに日本語

主催●明治大学大学院情報コミュニケーション研究科

お問い合わせ先 ● 明治大学大学院情報コミュニケーション研究科

http://www.meiji.ac.jp/dai_in/infocom/

